



地震の前に特別な雲が現れるの

昔から、多くの人が見ている

大昔から、地震の前に、特別な形や色の雲が、現れることは、世界中で知られていました。最近では、1923年の関東大地震（関東大震災）や、1995年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）でも、数日前から当日にかけて、特別な雲を見た人が、たくさんいました。このような雲を、地震雲といいます。

兵庫県南部地震のときに、「1月16日午後4時すぎ、明石のほうで、発生したものと思われる、少し変わった、たつまきのような雲を見た」、という報告がありました。

また、「1月9日の夕方近く、南西の方向に、今まで見たことがない、縦形の雲のようなものがあつた」、という報告もあります。

今のところ、確かめられていない

世界中で起こった大地震の前に、よく観測されている地震雲は、太いロープのような、すじ雲です。そのほかに、くさび形にならぶ、うろこ雲、おおぎ形に広がる雲、たつまき形の雲などです。

しかし、今のところ、本当に地震がくることを、知らせる雲が現れるかどうか、確かめられていません。また、これから起こる地震が、空の雲の形や色に、影響をおよぼすことが、あるのかどうか、わかっていません。（監修・国司 真）

